

# 婦人科疾患 産後うつへのリスクに

高知大学の研究者が“日本人女性における産後うつと妊娠前の婦人科系疾患の関連性について”の研究論文を発表しました。

今回の研究で、妊娠前に子宮内膜症や月経困難症、不正子宮出血など婦人科系疾患のある人は産後うつを発症するリスクが高まることが分かりました。

4月24日、高知大学医学部にて、菅沼成文教授、コンゴから留学している産婦人科医ムチャンガ・シファ研究員らによるこのエコチル調査の研究成果について記者発表を行いました。



Journal of Affective Disorders 217 電子版に掲載

高知大学 産後うつと婦人科疾患の関係を探る

## 婦人科疾患 産後うつリスク

### エコチル調査 高知大「支援の指標に」

産後うつと婦人科疾患の関係を探るムチャンガ・シファさんと菅沼成文教授（24日午前的、南国市同僚町小道の高知大学医学部）

「産後うつと婦人科疾患の関係を探る」と題して、高知大学医学部の菅沼成文教授と、コンゴ民主共和国から留学している産婦人科医ムチャンガ・シファさんによる研究論文が、4月24日、高知大学医学部にて記者発表された。この研究は、エコチル調査（日本環境と子どもの研究）の一環として行われた。研究の結果、妊娠前に子宮内膜症や月経困難症、不正子宮出血など婦人科系疾患のある人は、産後うつを発症するリスクが高まることが明らかになった。菅沼教授は「産後うつは、産後の生活に大きな影響を与える可能性がある。今回の研究結果は、産後うつを予防するための支援の指標に役立つと考えている」と話した。ムチャンガさんは「産後うつは、産後の生活に大きな影響を与える可能性がある。今回の研究結果は、産後うつを予防するための支援の指標に役立つと考えている」と話した。

2017年（平成29年）4月25日